

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314

# かさおか



新春の大教会神殿に飾られている松竹梅。

小庭を象る鉢の中には、灯笼、鶴、亀を置き、南天・  
笹・福寿草などを配植した縁起物の寄せ植えである。

(虫明立生陽備分教会長作 1月4日 撮影)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ  
祈る 動く つなぐ

立教176年  
1月号



## 立教百七十六年

明けましておめでとうございます

昨年一年間、皆様の心寄せを頂いて恙なくご用をつとめさせて頂くことが出来ました事、心よりお礼申し上げます。

さて、昨年秋季大祭に於いて、教祖百三十年祭に向けての諭達第三号が発布され、大教会では全教の先頭を切つて諭達巡教を受けさせて頂きました。誠に有難い事と喜ばせて頂くと共に、年祭に向けての歩みを笠岡挙げて力強く踏み出させて頂きたいと、決意した次第であります。

いよいよ本年が明けて、三年千日と仕切つての成人の歩みが始まりました。この歩みは、教祖のひながたを辿り、世界一列を助けたいとの親心に近づくための歩みであります。そして教祖のひながたは人助けの歩みであり、人助けが出来る人を育て上げる歩みであり

ます。もちろん教祖の通りに歩む事は出来ません。しかし教祖の思いを汲んで、自分が出来る範囲の中であれば、誰もが出来るものであり、諭達にも「おたすけは周囲に心を配ることから始まる」とありますように、決して「気構えてしなければならぬものでもありません。日常の生活の中で、いかに助け心を使い、実動していくかであります。笠岡では、三年千日と仕切つての歩みを「さあ！おたすけ」を合言葉に「祈る・動く・つなぐ」を実践項目として掲げて、成人の歩みを進めてまいります。そして本年の心定めの数を実数とし、尚かつ毎年少しずつでも心定め数を増やしていったら、十年掛けての目標であります「おつとめ奉仕人の増員」を果たしてまいりたいと思っております。「全教よふぼくの仕切つての成人と一手一つの活動」となるよう、今年一年どうぞ宜しくお願い申し上げます。

笠岡大教会長

上原理一

立教176年

## 各部会の抱負

及び

## 年間行事予定

この項は一月二十日、大教会年頭会議において配布された小冊子『立教176年 年頭会議各部会の抱負及び年間行事予定』の再掲です。

## 年祭活動推進委員会

笠岡大教会では、教祖百三十年祭へ向かう三年千日、年祭活動のスローガンを

さあ、おたすけ！

祈る、動く、つなぐ

と定めさせて頂きました。その一年目、踏み出しの年である本年は

- ・人のたすかりを願いましょう
- ・一日一つひのきしん
- ・進んで声を掛けましょう

との実行目標を掲げ歩ませて頂きます。

昨年秋季大祭で真柱様よりご発布頂いた諭達第三号では、よふぼく一人ひとりが、特別なことで

はなく、毎日の生活の中から周囲に心を配り、身近なところからおたすけへと取り組むようにとお促しくださっています。また、その日々の実践を通して世界の人々に、心を澄ましたすけ合う陽気ぐらしの姿を写してゆく事が大切であるとお示し頂いております。

そうした親の思いにお応えさせて頂けるよう、年祭活動推進委員会では話し合いを重ね話し合っ

てまいりました。特別な目標を掲げ三年と仕切って努める事ではなく、笠岡に繋がる全てのよふぼく信者が、日常生活の些細なことからおたすけへと繋げ、一年目より二年目、二年目より三年目と、一人も漏れることなく、一歩でも二歩でも成人させて頂けるよう三年仕切って、年祭への歩みを進めさせて頂きたいと思えます。

教会、家庭、個人で取り組めるよう、笠岡独自に作成した「成人目標」では、その具体的な活動内容を提示しております。

実践出来た項目、実践しようと思う項目に☑をして取り組みましょう。自身の取り組みへのステップアップが目に見えて、より積極的に取り組むことが出来ます。

教会から家庭へ積極的に声掛けを行い、家庭に於いては家族ぐるみで実践できるよう声掛け、働きかけましょう。

その一つの具体的活動として「お願いカード」を活用します。まずは身近な人のたすかりを願うところから始めさせて頂きましょう。

今年一年、年祭活動の歩みの上に、共に精一杯努めさせて頂きましょう。

## 布教部

布教部では、教祖百三十年祭へ向かう年祭活動の歩みを、推進委員会とも連携を持ちつつ進めてまいります。

その踏み出しの年である本年、諭達でお述べ下さる、よふぼく一人ひとりの実動を目指します。

中でも、よふぼくの中でのよふぼくである教会長夫妻がその自覚を高めることは勿論であります。が、教会に繋がる全てのよふぼく信者家庭へ、様々な角度からのアプローチを模索し、おたすけの出来るよふぼくへと丹精していく事が欠かすことのない働きかけです。

特に本年はそうした教会長からの声掛け、働きかけを通じた丹精を積極的に進めさせて頂きましょう。

また、全体行事としては、5月25日～26日にかけて「別席ひのきしん団参」が実施されます。年祭活動の実行目標を通して周囲の人々に眼を向ける心を養い、そこから、一人でも多くの人をお誘

いしておぢばに帰らせて頂きました。そして今年一年、私達笠岡に繋がる一同の歩みをご覧下さる教祖にお喜び頂けるよう、一手一つに明るく前向きに歩ませて頂きましょう。本年も何卒よろしくお願いいたします。

◎年間行事

1. 立教176年 教会長夫妻講習会

テーマ 「教会長のつとめと、

よふぼくへの丹精」(仮)

日 時 4月28日(日)

午前 9時30分 受付

10時 開講

15時 閉講

場 所 笠岡大教会

対 象 教会長と配偶者

受講お供 1人 千円

※その他詳細に関しましては、順次発表致します。

※身上などでやむなく欠席する場合は、届用紙を用意しておりますので、その理由を書いて、必ず大教会長様に提出して下さい。

2. 立教176年 全教一斉ひのきしんデー

期 日 4月29日(月・祝)

※参加への呼びかけを

(特に、教会と離れた地域に住まうよふぼ

くへも、所属教会から積極的な声掛けをお願いいたします。)

3. 立教176年 全教一斉にをいがけデー

・ 9月28日(土) 全教会長路傍講演の日

・ 9月29日(日)・30日(月)

全よふぼく実動日

※9月は布教強調の月です。9月3〜4日にか、部内教会を拠点とさせて頂いて、布教部員の布教活動を計画しております。

育成部

育成部の分掌

1. 教会長、教人、よふぼく、信者の育成に関する事

2. 教人資格講習、教会長資格検定講習、任命講習の修了講習会に関する事

3. 本部育成部主催の各種講習会の世話取り

おたすけ掛

- 1. おたすけ講話(月次祭日)及びおたすけ全般
- 2. 部内・布教所へのおたすけ
- 3. おたすけ相談

・ 毎月祭典後、神殿にて身上者の方へおさづけの取次ぎをさせて頂いています。当日、神事所に申込み用紙がございますので、用件(身上)を記

載して頂きますようお願いいたします。今、人気のよふぼく勉強会(よふぼく、信者の育成に)

毎月テーマを決め、担当の先生がお話しくださいます。

時間 午後1時15分より20分 お話し、

そして2時までねりあい。

午後2時に終了です。

本年6月までの予定は次の通りです。

各月のテーマ 担当者 司会

1月 心定め 谷内伸自 門脇元教

2月 教祖のお話し 高木昭祥 武内正美

3月 (学生層育成者講習会のためお休み)

4月 三日講習会 吉岡弘子 門脇加津

5月 (縦の伝道講習会のためお休み)

6月 理立て 笹尾正治 中島誠治

7月以降は『かさおか』誌5月号に掲載いたします。

海外部

論達を受けて教祖130年祭に向かう三年千日、海外部は3年後の当日に海外からの帰参者(日本に在住する海外者を含めて)50名を定めました。この3年の間に部員で海外の地に赴き帰参を呼びかけさせて頂くとともに、帰参される方のお世話取

りの準備を進めていく予定です。遠い地で活躍される用木・信者の方々に教祖年祭に向けての大教会長様の思い、大教会の進む指針などを所属教会の人達と相談しながら伝えさせていきたいと思ひます。

海外部員は全員が海外布教に想いがある、語学に堪能であるという訳ではありません。むしろどちらも得意でないかもしれません。しかし、今この同じ時代に生き、笠岡に所属し、大教会から命を受けた者達で、笠岡の海外に繋がる人たち、海外から日本へ在住している人達へのお世話取り、また次代を担っていく人達の人材育成・丹精が少しでも出来ればと思ひついでいます。

現在笠岡には米国、台湾、ブラジル、ケニア、タンザニアに用木が生活しています。また、海外から来日している用木、信者もいます。その人達と少しでも信仰の喜びを深め繋げていきたいと思ひます。

今年の年間の行事として、3月、11月に広島平和公園などの海外からの旅行者が集まる観光地での外国語パンフレット配布をします。これは海外布教に携わる理作りをさせて頂くという思ひでさせて頂いています。

英語講習会は、語学学習を通してのお道の勉強、国際意識の向上、また次代を担う海外に向かう人材の育成を目標としています。

11月の月次祭に合わせた海外布教推進講習会は、日頃海外に触れることのない人達に海外布教の話聞いて頂いて少しでも身近に感じて頂きたいと思ひて行われているのですが、また同時に海外布教経験のある講師の話から、おちばで始まり日本で育った教えが世界に向かうことの難しさ、世界の中の天理教の存在、おやさまが仰せられた「世界たすけ」の想いを聞いて感じられたことを、日々の信仰生活の中で生かして欲しいという想ひがあります。

少ない部員で出来ることは限られてきますが、「世界へ」の微々たる歩み、遅々たる歩みを少しずつでも切れないように繋いでいきたいと思ひます。

## 管理部

大教会・詰所共、夫々に年限を重ね、あちこち手を入れなくてはならない時期が来ております。又、共に敷地が広く、庭木の世話も大変です。今年も、皆様方の御協力をよろしくお願ひ致します。

### ◎年間行事予定

- 草刈り 夏季
- 植木の剪定 10月、11月
- 障子張替え 10月

○年末大掃除 12月22日

## 婦人会

新年おめでとうございます。旧年中は、支部婦人会活動にお力添えを頂き誠にありがとうございました。教祖130年祭年祭活動三年千日のスタートが切られました。心新たに一人ひとりの成人の歩みを進めてまいりたいと存じます。東日本大震災の大ふしを通し、教祖の教えを信仰する女性としてのあり方を改めて考えさせて頂きました。

一人ひとりが実(まこと)のようぼくに育つよう、自分を育て、人様にも育つて頂けるようつとめてまいりたいと存じます。

四月婦人会本部総会に、十一月女子青年大会に、たくさんのお打ち出、五月おちばがえり、別席ひのきしん団参にしっかり声をかけ、つながせて頂きたいと存じます。会員を育て心一つに大教会の陽気ぐらしの台とならせて頂きたいと存じます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

### 成人目標

ひながたをたどり

陽気ぐらしの台となりましょう

活動方針 立教176年

全婦人会員は ご恩報じの道を邁進しよう

一、教えを實踐して実(まこと)のようばくに育

つ

一、身近な人を実のようばくに育てる

◎立教176年 婦人会活動

2月3日 委員・直轄委員長研修会

4月19日 天理教婦人会第95回総会

記念行事 支部の集い

6月22・23日

女子青年 こかん様に続く会

9月23日 委員長後継者講習会

11月4日 第27回女子青年大会

記念行事 支部のつどい

花ひろば Lady Go!

\*例会

笠岡支部 毎月3日 連絡会 毎月21日

ひまわり会 毎月1日

\*女子青年

例会 不定期

神せん物洗 毎月20日

女子青年大会にむけ

課題への取り組み 2月10日、3月10日

親睦会(詰所) 4月18日

※本年は女子青年大会の年ですので、特に女子

青年会

青年の育成に力を注いでいきたいと存じます。お力添えをよろしくお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、青年会活動の上に、多大なるお力添えを頂き、誠にありがとうございました。

本年もより一層お力添え頂きますよう、よろしくお願い致します。

さて、昨年は「天理教青年会笠岡分会総会」を開催し、笠岡に繋がる青年一同、教祖130年祭へ向けての第一歩を、揃って踏み出す事ができたと感じております。迎えるこの年は、年祭に向けての最初の一年目です。青年会では、この一年を意義ある年とするため、踏み出した歩みを止めることのないよう、青年らしい勢いと情熱を持って、失敗を恐れず積極的に活動していきたいと考えております。

どうぞ皆様方のお力添えを頂きますよう、重ね重ねよろしくお願い致します。

◆本年の年会活動は、

『十三峠越え』・・・3月23・24日

『おやさとしん青年会ひのきしん隊』

・・・6月1日～24日

『あらしとよりよう入門塾』・・・8月15・16日

少年会

『全分会布教推進週間』・・・9月1日～8日  
『第89回天理教青年会総会』・・・10月27日  
『青年会員のつどい(仮)』・・・11月24日

少年会活動の目的は、少年会員のちかいかいにもありますように子供たちを立派なようばくへ育てることにあります。

少年会の活動は、そのための基礎づくりの場です。

昨年より活動方針が「ひのきしんの態度を映し、教えを實行する子供を育てよう」に改まりました。

ひのきしんは、子供たちでも実行できる、大切な信仰実践の一つです。

まずは、私たち育成者が、日常のひのきしんを心がけ、その態度を子供たちの心に映していこうというものです。

そして、様々な機会を通して、子供たちをしっかり教会へつなぎ、信仰を伝えさせて頂きたいと思えます。

本年も一年、縦の伝道の上にも勇んで心を掛けて下さいますようお願い致します。

## 学生担当委員会

平成24年度

天理教学生担当委員会 活動方針

基本方針

『学生に信仰の喜びを伝え、

立派なようばくに育つよう丹精しよう』

重点活動項目

- 一、高校生の集い「まなびば」の啓蒙と増員
- 一、「学生生徒修養会」動員へのさらなる取り組み
- 一、学生への声かけの一助として『Happist』の積極的活用

道の学生成人目標

- 一、生かされていることに感謝しよう
- 一、お道の素晴らしさを伝えよう
- 一、進んで教会につながろう

大教会の年間行事について

○学生層育成者講習会

..... 3月21日 大教会にて開催

学生層をはじめとする道の後継者育成の大切さを広く理解していただくため、月次祭の祭典講話として毎年開催させていただいてお

ります。

○春の学生おちばがえり・直属アワー

..... 3月28日 本部にて開催

「テーマ」世界の友にをやの思いを

～ さあ！ここ、おちばから～

毎年3月28日、お道につながる全ての学生がおちばに帰り集い、真柱様からいただくお言葉を目指して今後の成人を誓い合う「春の学生おちばがえり」が開催されます。直属アワーでは、大教会長様のお話・親睦行事・会食などが行われ、笠岡につながる学生生徒たちが親交を深めます。参加にあたりましては、各教区が企画する団参をご利用ください。

○おちば管内の学生の集い

..... 4月27日(土) 詰所にて開催

おちば管内で学ぶ学生を対象に行う親睦行事です。大教会長様にもお越しいただきお話を頂戴する予定です。是非ご参加下さい。学生には案内を出しますが、こちらで把握できていない学生もありますので、おちば管内で学ぶ学生がいらっしゃればお知らせ下さい。

その他おちばで開催される主な行事

○学生生徒修養会

高校の部・8月9日～15日  
大学の部・3月3日～9日

日頃おちばがえりをする機会が少ない高校

生が夏休みを、大学生が春休みを利用して全国各地から親里に集い、一週間の合宿生活を通してお道の信仰に目覚め、その後の歩みの上に役立つよう工夫された行事です。ほぼ全員の学生が「参加してよかった」「また来年も参加したい」と言う行事で一週間で学生が見事に変身します。

○おせち学生ひのきしん隊・1月4日～7日

新春、おちばでの恒例行事「お節会」に際して、会場内の整理・誘導・接待・洗い方などのひのきしんや親睦行事を通して、同じお道を歩む仲間が、ひのきしんや信仰について、また普段それぞれが思うことを語り合ったりと3泊4日の貴重な合宿です。対象は高校生・大学生・短大生・大学院生・専門学校生です。申し込みは各教区の学生担当委員会へ。

教区行事(主なもの)

○春の学生おちばがえり

○高校生の集い「まなびば」

同じ地域に住むお道につながる仲間同士が、お道の教えにふれ、少しでも教えに基づいた生き方を身につけてもらえるよう開催している行事。

○道の学生ひのきしんDAY

全国各地で、約2000人以上の学生がひのきしんに励みます。今年は、9月16日に実施予定です。

定期刊行物

○はっぴすと(高校生・大学生育成のための月刊誌。平成20年4月号より、大学生・専門学校生まで対象が広がりました。学生担当委員会より、学生本人の下宿先などへ直接発送して下さる個人購読も受付中です。)

天理教学生会ホームページ

..... <http://tsa.tenrikyo.or.jp/>

雅 鶯 会

○雅楽勉強会.....3月24日(日)

各教会の月次祭に雅楽を奏でよう。

- 対 象 初心者・初級者(少年会員、一般)
- 内 容 初心者は、雅楽の基礎から勉強を、また初級者は平調の越殿楽が合奏できるよう勉強します。
- と ころ 大教会
- 講 師 大教会雅楽奉仕者
- 参 加 費 300円
- 申 込 込 3月20日までに大教会に申し込み

※楽器は各自持参ですが都合がつかない人はご相談に応じます。

◎詰所入浴日変更について

12月より3月末まで入浴日は火曜・木曜・土曜・日曜です。帰参者がある場合はこれに限りません。

よふぼく勉強会開催

テーマは「年祭を迎える第一歩」

12月月次祭後

育成部(吉岡壽部長)では12月21日、大教会12月月次祭後、会議室で「よふぼく勉強会」を開催、約20人が参加した。今回のテーマは「年祭を迎える第一歩」。講師は吉岡壽先生。

まず参加者全員で「諭達」を拝読。

次いで先生は「朝夕のおつとめの大切さ。鳴物をはじめとする神具の手入れ、特にお鏡は曇らせないよう。日々、八つのほこりを払う通り方を。自教会の子どもの育成を通して、縦の布教の必要性。まず教会から勇む。『諭達』を受け、「教祖は



開催前に「諭達」を拝読する参加者

世界一れつをたすけたい」と仰せ下さるのだから、自分だけがたすかりたいのではなく、身上・事情に苦しむ人があれば治まりを願い、進んでおさづけを取り次がせて頂き、回復をお願いし、てをどりをつとめさせて頂く。それを神様に受け取って頂きにいがけをさせて頂く。その慈悲の心を、心に治めて欲しい——と話された。その後、質疑応答が行われた。

# 年末大掃除

12・22 大教会



神床・上段・中段は大教会長様・役員で



高所作業は青年会を中心に



婦人会・少年会も大活躍



今年もきれいに搗きあがった餅

管理部(武内清明部長)では、12月22日午前9時から恒例の年末大掃除を行い約90人が参加した。大教会長様の神床のすす払いをはじめ、上段・中段は役員で、参拝場は高所作業のため青年会員を中心に、ビデを3段組み、蛍光灯の取替え・欄間の清掃を行った。婦人会・少年会は役割を分担して掃除に使用する

る雑巾の準備をはじめ渡り廊下の窓拭き・信者室の清掃・昼食の準備など手際良く進めた。教祖130年祭、三年千日の歩みを心新たに迎えられるよう、心の掃除と共に一年間の大掃除をさせて頂いた。

## 勇んで餅つきひのきしん

12・25～26 詰所

恒例の詰所餅つきひのきしんは12月26日の準備

に続き27日に行われ大教会長様をはじめ教会長・有志・少年会員など55人が参加した。午前7時半から力強い掛け声と共に和気あいあいと行われ、10時過ぎには本部へのお供え用の5升餅28個、正月用小餅などが搗きあがった。26日、大教会から牡蠣かき、島根分教会から蟹の差し入れがあり参加者で頂き、ひのきしん後は、森本重吉さん(海松ヶ岡分)から特製うどんが振る舞われた。

# 温故知新

## いきいきエピソード 21

### 吉岡章女さんの初代会長の思い出

私が吉岡家へかえらせて頂きました翌年(結婚した翌年)即ち大正四年、高屋の初代様と吉岡の父に連れられて、芦津大教会で初めて初代様にごあいさつ申し上げました。その時はかねがね子供の時から聞かせて頂いておりましたので、教祖を拝するような心地がして初めてお目にかかるというような気持はいたしませんでした。それはそれは優しい中に神一条の御目のヒタと迫ってくる強さ、今尚忘れる事は出来ません。その時のお言葉は私一生を通じての心の定め方、又おたすけの台として、大勢の方に助かって頂きました。

親や夫から何か仰せつかった時、必ず一番に「ハイそうですね!」と受ける事が大切なやで、それでもこうや、ああや、と言いたくなるものや。けれども、それでは親や夫の理を踏み潰す事になるのやで。一応「ハイ」と心よく受けて後、私はこのように思いますが、と意見があれば言うのや。そうして自分の意見が通りそ

うになつても、これは決して理を踏み潰す事にはならん、とお教え頂きました。私の私の強い事を誰か言うたのかなと思えるようでズバリでした。以来心にしつかり受け止めて、家庭におきましても、後お道を通らせて頂く道中におきましても、心の定規とさせて頂きました。

又ある時亡き武内オドリ奥様(高屋二代会長夫人)と藤本ヒサ奥様(恵陽二代会長夫人)と私と三人でお伺いさせて頂きました時、三人三様にお話し下さいました。私には、「親を連れ子供を連れての布教の苦労は、ワイよう分かるで、でもなあ、嘘でもよいから親を喜ばしてやりや、ワイお光に(初代の長女)いつもそう言うてるのや。あんなア、あんとこの親御はなあ、竹田でも大きな百姓やったのやで、それを思い切つて高屋へ出て来てくれたのだが、高屋の困窮時代でなあ、火のない火鉢を抱えて毎日シヨンボリ考えておつた。あの姿が、お道の為になアと思えて、ワイ忘れられんのや。嘘でもよいから、しつかりと喜ばせてやりや。そしたら、それほんまになるんや」とシミシミ申して下さいました。「こないだもなあ、神邊の藤井九右衛門さんが来てくれたので、ワイお花がなかったのや、お花活けてやと言うたらなあ、ハイと言うても一

向に活けてくれんのや、なあ、藤井さんでないしたのやと言うたら、旧長さん嘘でもよいから親を喜ばせと仰つたでしよう。私ほんまはよう活けんのですと大笑いしたのや。でもナ、ワイ嬉しかったで」と笑い話の中に親孝行の最も大切な事をお仕込み下さいました。お二方の奥様へのお話もよく覚えております。他人事と思わず心にとめて通らせて頂きました。

旧長様の御前に座れば、ワイ耳が遠いからあんな達の言う事聞こえへんのや。ワイの話だけ聞いてくれたらいいのやで、といつもニコニコと笑いながら話して下さいました。教祖のぶどうに喩えてのお話や、まりに喩えてのお話の様に思われました。

又六畳一間での布教当時、主人と二人でお伺いしますと、おたすけ話を大変お喜び下さいました。お聞き取り下さいました。そんな中「あんなア、おたすけ頂いたと言うてお菓子などわざわざ買ってくる人があるやろ、そんな時此のお菓子がただの五銭でもお金であつたらと思ふ事もあるやろ。ワイもあつたのや。でもな、そんな事思うたらアカン、後ご守護が止まるで。」と布教第一線の苦労を通る者の心の底までお分り頂いてご自分のお通り下さった道のすがら

をお教え導いて下さいました。時と旬は移り替わりましても、つい同じ思いのする事がございますが、その度にそのお言葉が心の底から浮かんで参りましてお詫びと御礼を申し上げ、力づけて頂くのであります。

又二度目の腹膜炎の身上を頂いてすつきりいたしませず、大教会へ主人と共に参拝させて頂き御伺い申し上げましたところ、アンタ身上悪いと聞いて心配していたんやで、手紙でも出してやろうかと思うておったところや、よう帰ってきたなア、と優しく労って下され、どの心得違いやなどと一切仰せられず、アンタよ子やと思うておったが、早う死んだら何にも道の御用出来せんがな、長う生きさせて頂いて御用さして頂かなあかん。早う死んだらアカンで、と繰り返し繰り返しお聞かせ下さいました。そのお声が、お顔が今尚、耳の底に、目の底に残って消えません。そうして三日三夜のお願いで下され、大教会に泊まりや、朝は一

番心の澄んだ時やからと、朝おさづけを取り次いで下さいました。すつきりと不思議にご守護頂き、元の大教会の溝掃除のひのきしんに出させて頂いて大変お喜び下さいました事もございます。

幾度か死線を越えさせて頂き、あの弱い弱い私が今日まで別にお役にたちませんが、生きさせて頂いている事を思います時、ただただ夢のよいうな心地が致します。早う死んだらアカンデアカンデ、御用が出来へんと繰り返し仰せ下さいました深い深い大きな親心にお守り頂いている事と勿体なく思います。

大教会へ帰らせて頂く度に旧長様が、二代会長様が又先輩の先生方の御霊様がアンタまだ生きさせて頂いているのか、よう帰って来たなアと私の心に新しい力を与えて下さる思いが致します

まだまだ想い出はありますが、時間に関りがございますのでこれで失礼致します。有り難う御座いました。

(前史料部長)

## こころの詩

▼天理教道友社発行『天理時報』、「時報歌壇」・「時報俳壇」より転載

▽笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されてきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

1月1日付 東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

今年こそ人の真が天に添う

日本の未来に確かなあゆみ

1月13日付 海松ヶ岡分教会 池田広子さん

風向きで今日のはっきり聞こえる

連絡船の出港の汽笛

海松ヶ岡分教会 藤井光子さん

穏やかな風のなき日に落葉掃き

たまりし紅葉葉腐葉土にせむ

▼養徳社発行『陽気』誌七月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「昇」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されてきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳 詠 東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

理の世界真に思案の道動く

芦品分教会 金谷眞佐代さん

悩まずに体動かしおたすけに

## ▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

## 第863期修養科募集要項

**\*修養科期間**

立教176年3月1日～5月27日

**\*教 養 掛**

3ヶ月間	森 本 忠 善	(大教会准役員・海松ヶ岡分教会長)
1ヶ月目	竹 本 和 道	(福 芦 分教会長)
2ヶ月目	雑 賀 元 生	(照 雲 分教会長)
3ヶ月目	渡 邊 泰 造	(品 治 分教会長)

**\*募集要項**

- ・ 志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、5月29日午前10時に解散。

**\*教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』。

**\*参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

**\*携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

**\*服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		
大教会 御供	○		・願書に日付を入れない事。
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
大教会 御供	○		
「住民票」		○	



立教百七十五年 十二月月次祭 祭典役割表

控	胡	三	琴	小	す	太	拍	ち	笛	て	お	地	役	講	扈	祭							
																	え	弓	味	線	鼓	りが	鼓
	上	虫	今	中	武	杉	田	河	高	門	大	上	岡	大	三	門	吉	岡 本 久 善	杉 森 本 博 之	大 教 会 長 様			
	原	明	川	村	内	原	中	原	木	脇	教	原	本	島	脇	岡	坐 り 勤				大 教 会 長 様		
	順	好	佐	道	清	博	隆	節	昭	郁	会	繁	久	元	元	壽						前 半	二 月 講 話
	子	美	智	徳	明	之	之	喜	祥	子	奥	道	善	涉	教	壽		上 原 志 郎	上 原 繁 道	今 川 昌 彦			
	高	岡	佐	赤	西	中	横	今	上	谷	森	内	笹	岡	岡	森	佐				後 半		
	木	崎	藤	木	江	村	山	川	原	内	本	海	尾	崎	本	忠	藤					中 村 剛	上 原 繁 道
	孝	豊	香	素	昌	義	逸	昌	浩	美	富	安	正	和	久	平	道	横 山 小 智 榮	上 原 繁 道	今 川 昌 彦			
	子	苗	苗	直	直	太	郎	彦	浩	知	美	子	治	夫	善	彦	孝				横 山 小 智 榮		
	横	三	笹	虫	吉	淺	森	田	内	中	門	武	上	岡	上	山	谷					横 山 小 智 榮	上 原 繁 道
	山	島	尾	明	岡	野	本	林	海	村	脇	内	原	崎	原	田	内	横 山 小 智 榮	上 原 繁 道	今 川 昌 彦			
	小	照	一	立	誠	明	忠	久	史	初	加	正	志	真	繁	敏	伸				横 山 小 智 榮		
	智	美	美	生	一	教	善	嗣	郎	美	津	美	郎	一	道	教	自					横 山 小 智 榮	上 原 繁 道

こころの詩2

1月7日 日記より (お節会参拝)

弥高山分教会

藤本節子さん

甘露台 近くに集いおつとめを  
 教服の会長<sup>大教会長様</sup>笑顔でご挨拶  
 回廊の日だまり通り教祖殿  
 教祖殿ふすまへだてて梅と松  
 若人の笑顔の中をお節会へと  
 学生の給仕嬉しやお節会餅

会長様・奥様の心のこもったおもてなしに感謝



## 十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「月日にハセかいちうゝハみなわが子 たすけたいとの心ばかりで」と身体の自由を御守護下さるばかりでなく、身上事情を通してたすけの旬をお与え下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げると共に御恩報じを思い念じて たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いておりますが 気がつけば今年もあとわずかとなってまいりました

改めて一年を振り返ってみますと教祖百三十年祭目指しておつとめ奉仕人を御守護頂くべく 昨年の記念祭を節目に「理作り」に加え「育て」に重きをおいて成人のあゆみを進めさせて頂きました 家族知人を始め 一人でも多くの人に教会へ おちばへと声掛け 一回でも多くおさづけの取次をすべくにをいがけにと運ばせて頂いてまいりました その中 福山・高屋・神邊が創立百二十周年を迎える事が出来 十一月二十三日の別席ひのきしん団参も勇み心一杯につとめる事が出来ました また論達第三号の御発布を頂戴し 論達巡教も全教に先駆けて受ける事も出来 勇み心一杯に成人の歩みを進めてまいりました

そして今日の吉日は十二月の御祭日でございますので 日々の御礼と併せ今年一年の御礼も申し上げたく 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて 本年納めの月次祭を執り行なわせて頂きます 御前には年の瀬の慌ただしさも厭いませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝む状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて次なる年が明ければ 教祖百三十年祭に向けて三年千日と仕切って 全教挙げての成人の歩みが始まります 笠岡はその先陣を切るべく 一月には直轄教会へ 二月三月は部内教会へと 論達巡教をさせて頂き 論達の徹底を計ると共に 笠岡の動きとして 「さあ、おたすけ！」をスローガンに掲げ 「祈る・動く・つなぐ」を実践項目として 「ひながた」を辿らせて頂いて おつとめ奉仕人増員に繋げる事を誓い合いたいと存じます

何卒親神様には 皆の旬の理に応えて心を定める真実誠の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に年祭の旬ならではの自由の御守護を賜りまして 人々が真の親に気付き 一列兄弟の理に目覚めて 互いに助け合う陽気ぐらしの世の状の実現を予感させる心晴れやかな年末年始となりますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

※お詫びと訂正

昨年12月21日発行の『かさおか第51巻第12号』の表紙の写真撮影日は11月11日ではなく12月11日に訂正いたします。

また、同9ページ『温故知新』の執筆者が「笠岡史料部長」となっておりましたが、「前史料部長」の誤りでした。

なお、同2ページ「論達巡教」のリード記事に「論達講話要旨は本誌新年号に掲載予定」と記載しておりましたが、都合により差し控えさせていただきます。

読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

大教会だより

◎立教175年論達巡教(春季大祭参拝)

福山岡本久善  
高屋大教会奥様  
神邊中村邦義

島根	中村	久善	鶴岡	吉岡	上原	佐藤	陽備	摩耶	金浦	興明	ひろさと	陶山	芳井	呉照	海松	東悠	吸江	照陽	輝美	新山	皆部	明石	上原	府中	東城	服部	島中	驛家	
中村	岡本	久善	岡本	岡本	原繁	藤道	佐藤	中村	岡本	大教会	吉岡	中村	大教会	大教会	岡本	上原	大教会	大教会	大教会	中村	大教会	大教会	上原	大教会	大教会	上原	中村	中村	中村
剛	善	剛	善	善	道	孝	剛	剛	善	剛	剛	剛	剛	剛	道	孝	孝	孝	剛	剛	剛	剛	道	道	道	道	義	義	義



油木	吉岡	佐藤	湯田	備中	神昭	美之郷	錦備	笠晴
剛	道	道	孝	孝	義	善	剛	剛

1月5日、JR兵庫おせち号(教

区列車団参行事)に家族7人乗っておちばのおせち行事に帰参する。毎年5日は本部に参拝して「昨年の御礼、今年の心定め」を申し上げる一日だ。唯、団参の支部担当なので行き電車内で集金をしてJR添乗員の方に納金、行き帰りの乗車切符を受け取り、参加者に配る……、これがなかなか難しい作業で往復の利用者有り、片道の人有り、乗車駅が何駅も有り、毎年何とかクリアーしている現状だ。今年も2時間かかった

……。  
天理駅から各支部の参加者は帰りの待合室集合時間までフリータイム。私達家族はわいわいしゃべりながら神苑へ。南礼拝殿、教祖殿、祖霊殿と回廊を廻る。今年も元気で参拝できた。当たり前に思っては全く申し訳ない。親神様のご守護に深く御礼申し上げる。教祖130年祭に向かう三年千日のスタートの年、深く感謝の御礼を申しながら今年の奮闘を誓う。

楽しみのお餅は40分程並んだが幸い寒風無く穏やかな一日で有難く第2食堂で沢山お餅を頂く。おすましに水菜、焼き餅で、あっさりして沢山頂いた。5才、3才の孫達も「おいしいねえ」と嬉しそうだ。帰りの車中は担当の仕事も無くのんびりして無事参拝出来た喜びに浸って帰宅した。



(ひ)